

十和田市事務事業評価シート

【事務事業の概要】

整理番号	②-47	実施計画番号	60	事業開始年度	平成26年度
事務事業名	「夢への挑戦」講演会の実施			事業終了年度	—
担当課名	指導課			事務の種類(選択)	自治事務
根拠法令等	関連事務事業				
背景や経緯等	市立中学校の第2学年全生徒を対象に、第一線で活躍する著名人による講演会を開催する。				
事務事業の目的	文化、スポーツ等の第一線で活躍する著名人が、夢や希望の実現を目指して努力や挑戦をし続けてきた様々な体験や感動を、中学生に直接伝えることを通じて、将来の夢・希望の実現を目指して努力し続けようとする意欲や態度を育てる。				
実施状況	事業開始年度になる平成26年度は、北京オリンピックメダリストの朝原宣治氏の講演会を、今年度は、宇宙飛行士の山崎直子氏の講演会を市立全中学校2年生に対して行った。				

【人件費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
正職員	従事者数(人)	1	1	1
	活動日数(日)	10	10	10
	人件費(千円)	360	360	360
正職員以外(選択↓)	従事者数(人)			
	活動日数(日)			
	人件費(千円)			

【事業費の推移】

		26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
事業費合計(千円)		1,028	1,028	1,215

【指標】

活動指標	活動指標名①		講演会参加中学生数(市立中学校+域内中学生)			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			人	667	699	700
	活動指標名②					
成果指標	成果指標名①		全国学力調査で「将来の夢や希望をもっている」生徒の割合			
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
			%	100	100	100
				79.0	82.6	
				79%	83%	
	達成度(%)					
	成果指標名②					
	計算式等		単位	26年度実績	27年度実績(見込)	28年度予定
達成度(%)						

十和田市事務事業評価シート

【担当課による検証】

ポイント		検証(選択)	評価	点数	合計	検証の理由
妥当性	① 市民ニーズ等から見る妥当性 市民ニーズや時代潮流の変化により、事務事業の役割が薄れていないか	A 薄れていない B 幾分薄れている C 薄れている	A	2	4	存在意義の見直しの余地 0 / 4 将来に夢や希望をもつことは、学習意欲向上のために不可欠である。 本事業は、文化、スポーツ等の第一線で活躍する著名人を招くことから、行政が主導しなければ実施できない事業であると考ええる。
	② 実施主体である妥当性 行政が実施することが妥当か(民間と競合していないか)	A 妥当である B あまり妥当ではない C 妥当ではない	A	2		
有効性	③ 活動指標から見る有効性 活動指標の実績は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2	6	成果向上の余地 0 / 6 送迎の貸切バス等を用意し、市立中学校全2年生に対して講演会を実施することが出来た。 全国学力調査の「将来の夢や希望をもっている」生徒の割合も順調に増えてきている。
	④ 成果指標から見る有効性 成果指標の目標達成状況は、順調に推移しているか	A 順調である B あまり順調ではない C 順調ではない	A	2		
	⑤ 事務事業の見直しの余地 成果を向上・安定させるため、事務事業の見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
効率性	⑥ 事業費の削減の余地 事務手順の見直しや正職員以外での対応により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2	6	コスト削減の余地 0 / 6 本事業最大の難点は、講師選定である。限られた予算で、著名な講師を招くためには、講師派遣に関する民間委託は欠かせない。
	⑦ 他の事務事業との統合・連携 類似又は関連事業との統合・連携により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
	⑧ 民間委託等 民間委託・指定管理者・PFI等により、成果を下げずにコスト削減は可能か	A コストに無駄がない B 検討の余地あり C 可能である ★ 実施済	A	2		
公平性	⑨ 受益の偏り 現在の受益は公平か。特定の個人・団体に受益が偏っていないか	A 偏っていない B 多少偏っている C 偏っている	B	1	3	受益者負担適正化の余地 1 / 4 遠方の中学校に対しては、送迎用の貸切バスを準備しているため公平性は保たれていると考える。 講師については、文化とスポーツのバランスを取りながら選定し実施しているが、興味関心に偏りがあることも考えられるため、どの生徒にも有益な講師選定に努める必要がある。
	⑩ 受益者負担の見直しの余地 現在の受益者負担は適切か。見直しの余地はあるか	A 見直しの余地はない B 検討の余地あり C 見直すべき	A	2		
現在の適性 19 / 20					改善の余地 1 / 20	

【点数化による検証】

当該事業の現在の適性は20点中 **19** 点です。

当該事業の改善の余地は20点中 **1** 点です。

【担当課長による評価】

当該事業の今後の方向性(選択) ※事業終了年度がH27の場合は回答不要 ⇒

現状のまま継続

方向性の理由 ※事業終了年度がH27の場合は回答不要

生徒が将来に夢や希望をもつことは、学力向上の基となる学習意欲向上に不可欠である。そのために、第一線で活躍する著名人を講師に招き、生き様を学び、憧れをもたせる本事業は、大いに有効である。したがって、講演内容の一層の充実を目指しながら継続していきたい。

今後の具体的な取組方策と狙う効果 ※事業終了年度がH27の場合は、『事業を実施したことにより今後見込まれる効果』を記載してください。

講演内容の一層の充実を目指して講師選定をし、生徒の「将来に夢や希望をもつ」割合を高め、市全体の学力向上につなげていきたい。